

別紙様式

令和7年度 周南市立須磨小学校 学校評価書 校長(兼石淳一郎)

1 学校教育目標
教育目標……ふるさとを愛し、未来を拓く、人間性豊かでたくましい須磨っ子の育成
中・長期目標……確かな学力の向上、体験活動を通じた郷土愛の醸成、継続的な取組による体力の増進

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
 ○小規模校の利点を最大限生かし、子どもの実態や教育的ニーズ、個々の夢や目標等に応じたきめ細かい指導・支援を地域との連携を大切にしながら行っていく必要がある。
 ○児童の将来の姿(中学校以降)を想定して、確かな学力と定着と表現力・コミュニケーション能力の向上を計画的に進めていく必要がある。
 ○これまでの学校運営により保護者や地域との信頼関係に基づく良好な関係が築かれており、多くの場面で支援を受け、教育活動が充実したものとなっている。地域の方々が学校教育に関わりやすい環境づくりを進めることが、子どもたちの教育にとっても必要不可欠である。
 ○豊かな自然、産業、文化等の特色を生かした体験活動を重視した教育活動を積極的に行っており、教育的な成果を上げることができている。教育的な効果を勘案して内容の精選充実を図っていく必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
「行きたい学校、行かせたい学校、地域から愛される学校」
 ○地域との連携・協働を図り、「地域ぐるみで子どもの夢や目標を応援する学校」を推進し、よりよい学校づくりをよりよい地域づくりにつなげていく。
 ○須金の特色を生かした様々な体験活動を行い、故郷を愛する心を育てる。
 ○他校との交流学習を積極的に行っており、同年代の子どもとのかかわりを増やすことで、学習への意欲を高めたりコミュニケーション能力を身につけたりできるようにする。
 ○一人ひとりの実態に応じた環境設定や授業づくりを行い、基礎的・基本的な学習の定着を図る。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
確かな学力の向上	一人ひとりの実態に応じた学び	実態の把握、指導方法の工夫 学習環境の整備 個に応じた配慮	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	個別指導の中で、児童の学力を高めていくように努めている。児童が自ら学びに向かえるよう、自ら工夫しながら学習に取り組んでいくことができるよう、主体性を高めていく必要がある。また、文章や言葉で自分の思いや考えを表現できる場を意図的に設けていく必要がある。	○教職員や地域みんなで協力しながら充実した教育活動を実施してほしい。 ○1対1の授業の難しさを感じるが、その中で授業内容は工夫されている。 ○生活の中での整理整頓はとても大切。 ○学ぶことが楽しいという環境づくりをしてほしい。 ○自分の考えを表現する場を設けることを継続して取り組んでほしい。 ○振り返りを常に求めていることは評価できるが、アウトプットの仕方を指導する必要がある。 ○子どもは、大人と一緒に授業を受けることをどのようにとらえているか知りたい。 ○地域の人を手本と出来る大人と学ぶ場を充実させてほしい。 ○行事を減らして、先生と子どもがゆとりと関わる時間があっても良いのではないかと。	B
	学習規律の確立	「須々万中学校区スタンダード」に則った学習規律の確立	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	3	アンケート結果が2番目に低い項目である。「あまりあてはまらない」の回答が3件ある。少人数の生活の中で、許されてしまっている部分もある気がする。個々の児童に自覚を促す指導を継続して行っていく必要がある。		
	子どもと大人と一緒に学ぶ授業の推進	地域の方の参加による外国語活動、合同音楽の年間を通じた実施	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	「大人の学び」として、外国語活動と音楽を継続して実施している。人権教育授業・ビブリオバトルや出前博物館・盲導犬体験など大人と子供と一緒に学ぶ授業も行うことができた。大人と大人が学ぶ場として折り紙教室を始めている。		
豊かな心の育成	他校との交流学習	沼城小学校との交流 浮島小学校との交流 八代小学校との交流	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	沼城小学校(4回)、八代小学校(4回)、浮島小学校(2回)、須々万中学校区(1回)を実施。1年はそれ以外に3回以上実施。上記の学校と湯野小とオンラインの交流も実施。オンライン交流については、児童も慣れきており、画面上で意見の交流ができるようになってきている。	○いろいろな価値観や考えに触れることができる交流や体験活動の充実に向けてほしい。 ○互いの活動を見ることができるオンライン交流は良い。 ○同世代の交流は不可欠である。今後も続けてほしい。 ○大人数の学校との交流を望む。 ○体験活動は充実している。 ○児童の状況に関する職員間の共有は重要。今後も続けてほしい。	A
	体験活動の充実	自然体験活動 産業・文化体験活動 農作物栽培活動 地域貢献活動	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	地域の特色を生かした体験活動を実施することができた。活動後は必ず感想を発表させたり、記録を残したりすることで、体験するだけに終わらせないようにしている。意欲的に自分から振り返りを発表する姿が見られるようになってきている。発表の内容を充実を図っていく必要がある。		
	教育相談の充実	週1回のアンケートと学期1回の教育相談活動の実施、専門家との連携 いじめの未然防止、早期対応	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	週1回の生活アンケート、学期1回の全教職員による面談、SCによる全児童面談の実施。SSWの連携した取組も継続している。児童の相談内容や日常の気づきについては、毎週職員全員で共有する時間を設け、指導に生かしている。		
健やかな体の育成	地域と連携した体力づくり	様々な運動体験 地域の方と一緒に学校で運動する機会	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	マイペースラン及びマイペース運動を18回実施。地域の方と一緒に活動することで、子どもたちも日頃以上の頑張りを見せていた。大人が運動する姿が子どもたちにとって刺激となっている。日常的に児童が苦手とする敏捷性や柔軟性に関わる運動を業間に続け、記録も向上している。	○毎日少しでも必ず運動する時間を確保することが大切。 ○きつてももうひと踏ん張りできる体力づくりを目指してほしい。 ○学校主体のマイペースラン、マイペース運動の取組は評価できる。 ○生活習慣は各人の家庭環境によるところが大きいが、自分から気づきを見つけて行動できるように支援する取組を望む。 ○一人ひとりの運動能力の向上には、改善の余地がある。 ○全学年一緒に体育の授業ではあるが、学年に応じた取組ができるよう工夫をお願いしたい。	B
	よりよい生活習慣の定着	須々万中校区での共通した取組である、「生活リズムチェック」を各学期に実施	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	3	早寝・早起き・あさごはんのアンケート結果が一番低く3.2となっている。「よくあてはまる」という回答アンケートも項目の中で一番低い。生活リズムチェックの結果をしっかりと振り返る場を設けるなどして、自覚化を促す必要がある。		
地域との連携	地域の人・自然・産業・文化等を生かした体験的な活動の推進	学校・地域連携カリキュラムの計画的な実施と改善	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	様々な体験活動を地域の方々との協力を得ながら行うことができ、子どもたちにとっても貴重な学習の機会となっている。今後も継続していくことで、ふるさと須金を愛する気持ちを育てていきたい。体験だけに終わらず、しっかりと自分のものとして出来るよう、表現活動などを工夫していく必要がある。	○児童には地域の方にやってもらって当然という意識を持たせないよう配慮が必要。感謝の気持ちを育ててほしい。 ○須金のことに積極的に興味をもってほしい。できる限り協力したい。 ○地域連携は従来から積極的に行われている。 ○連携は十分できている。 ○山間地域のよさが発揮されている。	A
	小中連携の活性化	合同学校運営協議会・合同研修会・定期的な情報交換等の実施	児童、保護者、地域、教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	合同学校運営協議会において、10年後、20年後に期待する子どもの姿から学校・地域連携カリキュラムの改善や精選について話し合いを持ち、それぞれの願いを共有することができたが、具体的な動きにはまだ至っていない。		
業務改善	学校の組織等	地域との連携による学校運営	教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	保護者・地域住民等による学校の環境整備や通学の見守り、授業・行事への参加・協力等により、学校運営をスムーズに行うことができていた。ただ、それにもかかわらず後述のように時間外勤務時間は減っていない。行事の精選、運営方法の改善等を行う必要がある。	○先生の負担軽減のために、学校行事の在り方を考えなくてもよいのではないかと。 ○地域として学校運営の手助けをしていきたい。学校としても積極的に地域に協力を求めてもよいのではないかと。 ○地域に人を利用できる場所は利用したほうがよい。 ○時間外勤務時間の減少のために、具体的な数値目標を掲げることが必要。	B
	地域連携組織力の強化	教育の質の維持・向上	教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	4	会議におけるペーパーレス化を進めることで、会議の効率化を図るとともに次年度への資料の蓄積が容易になり、業務の効率化を図ることにつながった。教職員が協力し合って業務を行うことができていた。		
	日常的な業務	校務の精選	教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	3	時間外業務時間月45時間を超えた延べ人数5名。時間外業務時間の平均39.8時間。国の目標30時間を大きく超えている。年休取得率35%。少人数体制での校務運営で、教職員一人ひとりに負担がかかっているのが現状である。		
	業務の効率化	ペーパーレス化	教師の 4: 評価が3.5以上 3: 評価が3.2以上 2: 評価が3以上 1: 評価が3未満	2			

6 学校評価総括(取組の成果と課題)
 本年度は、地域と連携しながら「行きたい学校、行かせたい学校」をめざして教育活動を進めた。個別指導を中心とした学習の充実により、児童が主体的に学ぶ姿が育ってきた。一方で、学習規律の定着には課題が残る。少人数ならではの「許されてしまう場面」に対応していく必要がある。交流活動では、沼城小・八代小・浮島小との対面やオンラインによる交流を継続し、児童が他者と関わりながら学ぶ経験を積むことができた。価値観の広がりや社会性の成長は大きな成果であるが、活動内容のさらなる工夫が求められる。体験活動は地域資源を生かして充実しており、活動後の振り返りによって学びが深まった。今後は発表内容の質を高める指導が必要である。体力づくり・生活習慣では、マイペース運動を継続し、地域とともに体力向上を図ることができた。しかし、生活リズム(早寝・早起き・朝ごはん)の自己評価が低く、改善に向けた働きかけが必要である。地域・小中連携は協力体制が整い、学校運営が円滑に進んだ。ただし、児童が「やってもらって当然」とならないよう、感謝の気持ちを育てていく必要がある。業務改善ではペーパーレス化などの工夫を行ったが、時間外勤務時間(平均39.8時間)や年休取得率(35%)は依然として厳しい状況であり、行事の精選や業務の再構築が求められる。

7 次年度への改善策
【学習指導】表現力を高めるため、話す・書く活動を計画的に設定する。
【交流学習】沼城小・八代小・浮島小との交流を継続し、活動内容をより児童の実態に応じたものへと改善する。オンライン交流も適切に活用する。
【体験活動】体験後の記録・発表などの振り返りを充実させ、学びの定着を図る。
【健康・生活習慣】マイペース運動を継続し、学年差に応じた活動の工夫を図る。
【業務改善】教職員の負担を軽減するため、行事の見直しや業務の精選を進める。地域と協力し、外部化できる業務を検討する。勤務時間管理を徹底し、時間外勤務時間の削減を図る。